



五輪へ育て、通訳ボランティア

神田外語大学で、育成セミナー開始

全国七つの外国語大学による通訳ボランティアの育成セミナーが24日、千葉市美浜区の神田外語大学で始まった。2020年の東京五輪・パラリンピックを見すえた取り組みで、同大や関西外国語大学、長崎外国語大学などの学生240人が参加した。27日までで、通訳技法や異文化理解などについて学ぶ。

最初の講義では、アジアラグビーフットボール協会理事の上野裕一氏が講演。19年のラグビーW杯に向けた取り組みなどを紹介し、「スポーツイベントとは勝てばいいということではない。共生社会を目指したい」と話した。その後、学生らは、「スポーツ文化・教養」と「おもてなし」の講座を受講した。名古屋外国語大学1年の橋爪沙美さん(18)は「通訳をするために、言葉だけでなく知識が必要だと思い参加した。東京五輪では、日本人に世界の人のよい所を知ってもらえるような通訳もできるようにしたい」と話した。

許諾番号：26-1872

本記事は、朝日新聞に無断で転載することを禁止します。